猫

蝶々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
猫

【Ｎコード】
Ｎ１９８１Ｒ

【作者名】
蝶々

【あらすじ】
あの子はどこにいるのだろう。

声が聞こえた気がした。
ふとそれに私は気付いて、足を止めた。
きょろきょろと周りを見回す。
いない。
いるのは女の子一人。
肩まで髪を伸ばした黒い髪の女の子。

また聞こえた。
か細い、撫でるような声。
私も返す。

どこにいるの。
どこにいるの。

すると女の子が近寄ってくる。
もう一度声を出した。
ぱあ、と女の子は顔を輝かす。
口を動かし、なにか喋っているようだった。
でもなにを言っているのかさっぱりわからない。
さらに近寄ってきた。
さすがに怖くて、私は逃げた。

ニンゲンハコワイ。

それはいつからか母さんに教えられていたことだった。

近寄っちゃだめよ。
人間たちのせいで、母さんたちの親戚や友達も皆死んじゃってるんだから。
この間はリカちゃんが死んじゃったでしょう。
その前は五郎叔父さんだった。

ニンゲンハコワイ。
だから近寄っちゃだめよ。

それが母さんの口癖だった。
その母さんも、だいぶ前にいなくなった。
帰ってこないということは、私たちの間ではもう違う世界へ行ってしまったことを意味する。
拾われたり、いろいろ。
どちらにせよ、二度と会えないことはもう暗黙の了解だった。
それから結婚するまではずっと一人で、子供が出来てからはその子と一緒だった。
ずっと一緒だった。

だけど、あの子も消えてしまった。

いなくなってしまった。

女の子は私に目線を合わせようとしゃがんだ。
くりっとした、大きな茶色い目だった。
手を出して、おいで、としているようだった。
だけど私は行かない。
じっと、彼女を睨む。
それに気付いていないらしく、もっと近寄ってくる。

声が聞こえる。
また見回した。
可愛い、私の息子の声。
どこにいるの。
どこにいるの。
私は懸命に見回すけれど。どこにもいない。
するとまた彼女が寄ってきて、私はよそのお家へ構わず駆け込んだ。

まだ声はする。
きっとこのどこかにいるのだ。
この間黒いごつごつした道に倒れていたのはやっぱり私の息子ではないのだ。
うちの子じゃない、よく似た子だったのだ。
きっとそうだったのだ。

諦めたのか飽きたのか、女の子はいつの間にかいなくなっていた。
私はゆっくりと顔を出す。
てこてこと歩いていき、黒いごつごつした道の上にしゃがみこんだ。

あの子はどこにいるのだろう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1981r/

猫

2011年9月5日16時28分発行